

【1班】タイトル：町全体が学校区

テーマ	グループ	No	内容
中学校教育で重視することは	学力の向上	1	学力の向上
		2	選択を持たせる。得意なものをのばす。
		3	学力の向上。特に英語。
		4	学力の向上。世界へ向けて。
		5	学力の向上、ヤル気。数学、英語はほぼ同じ理解者のグループ分け。
	部活動の充実・体力向上	6	部活動の充実（選択できる部活数）
		7	活発な部活動
		8	体力向上
		9	体力の向上
	いじめ・不登校の対応	10	いじめや不登校への確実な対応
		11	不登校への対応。登校時間帯を他生徒の下校後にする（17時からなど）。
		12	不登校生徒への対応
	コミュニケーション能力向上	13	コミュニケーション能力向上。イジメへらせる。
		14	社会性の育成（コミュニケーション能力の育成）
	郷土愛の育成	15	専門の方からの出前授業（地域の方からの授業）
		16	郷土愛の育成
教育環境で重視することは	登下校の時間・安全性（距離）	17	子供が居心地が良いと思える環境づくり
		18	平等な時間。登下校。
		19	自転車通学。学校から2km以上が許可されるが、1.5kmにして欲しい。
		20	安全性
		21	土曜日など休日の部活時のスクールバスの充実
	部活動指導者の専門性	22	部活動の指導者の専門性（充実しているかどうか）
		23	地域との協力
	先生の充実	24	先生の充実（専門の教員から学ぶ教科）
		25	先生が充実している
	地域からの学び	26	地域との連携や協力が盛んな事
		27	地域から学ぶ。地元の歴史、体験談を聞く
	施設の充実・ICT	28	ICT教育の充実
		29	施設が充実している。・校舎・部活
	その他自由意見	今後の学校づくり	30
31			1学級20名（以上）の学校程度でもいいのでは
32			全国の小規模校の教育が知りたい（生かしたい）
33			小中一貫教育を
34			何回も統合すると負担がある
35			新しい学校も検討してほしい
36			統合後の地域とのつながりは考えているか
37			子供一人に合った教育が出来る学校
38		選ぶことのできる中学校にしたい	
施設の利用		39	学ぶ場。公民館の利用。
学力の向上		40	クラス内での学力の差をどう指導していくか。
その他	41	身体への負担減のため。教科書の持ち帰りの選択制。	

【2班】タイトル：地域（ふるさと）密着

テーマ	グループ	No	内容	
中学校教育で重視することは	地域	1	生まれた地域の伝統文化行事を大切に教育	
		2	地域の宝を守る（学校林等）	
		3	地域行事の参加必須	
		4	地域を巻き込んだ学校行事をしたい	
		5	十日町各地域の文化の教育（国際化の一環）	
		6	日本文化の教育（国際化の一環）	
		7	十日町各地域の歴史教育（国際化の一環）	
		8	（部活より）学習を優先する教育	
		9	（部活より）地域の行事を優先する教育	
		10	地域住民とのふれあい（運動会、大地の芸術祭）	
		11	地域から学ぶ（会社見学）	
		12	保育園、小学校とも活動する機会	
	学力	13	集団（クラス）で1冊の本を読んで感想を話し合う	
		14	論理的思考を育てる教育（それができてからでないとプログラミング教育は無意味）	
		15	学習への意欲を高める	
		16	多様性を理解する	
		17	中学生同士（学年を超えた）学校活動（授業とかも）	
	部活	18	部活動を積極的に推進	
		19	熱心な部活動	
	役割	20	一人ひとりが役割を担う	
	小中一貫	21	小中一貫教育を大切に推進する	
	その他	22	選択肢が多い	
教育環境で重視することは	人に学ぶ	23	地域住民が先生になる	
		24	地域住民がどのようなスキルを持っているのか見える化	
		25	地域で活躍する方の話を聞く	
		26	不審者扱いされない地域の人の出入りが自由な仕組み	
		27	中学校に学童保育	
		28	校舎のバリアフリー	
		通学	29	生徒が30分以内、あるいは自転車で通学ができる環境
			30	基本は徒歩通学
	31		部活の送迎の負担軽減	
	32		安全（スクールバス登下校の整備）	
	33		スクールバスによる送迎が手厚い	
	先生	34	英語の先生やスクールカウンセラーの充実	
		35	教員（職員）は最低5年在籍	
		36	先生の育成と指導、子どもは先生に大きく影響	
	地域	37	地域行事に参加する	
		38	地産地消	
	GIGA	39	必要に応じてオンラン公開授業→一つの中学校だけではなく十日町市内全中学校でLive	
		40	少人数学級でも多様な意見交換ができる環境 ・ICTの活用 ・他校とのオンライン授業	
	地域行事	41	20人以下学級	
	居心地	42	何でも相談しやすい雰囲気づくり	
	その他自由意見	地域行事	43	中学校教科担任の研修の機会の確保 ・教育系ネットワークの整備に関連して
			44	教員に地域の行事に参加しろとは言わないが、せめて地域の行事を理解して欲しい
45			部活の地域移行 ・人とのかわり ・人間形成	
学区		46	学校区がなくなると良い	
		47	学校毎の特色がある学校教育になる様に	
		48	子どもたちの声を直接聞いてみたい	
校舎の活用		49	廃校校舎で課外授業	
		50	中学校がなくなった地域の対応（市は積極的に支援）	
		51	学校の掃除を地域住民と行う	
小中一貫		52	小中一貫が継続される様に	
		53	旧市町村に小・中学校があるように	
学力	54	グロービスやスタディサプリで先生が教え方を学ぶ		
地域	55	「生涯学び」（大人＝地域の人も学校で学ぶ）機会、設備		

【3班】タイトル：みんなの中学校

テーマ	グループ	No	内容	
中学校教育で重視することは	コミュニケーションの力	1	相互理解と相乗効果をつくりだすコミュニケーションの基礎を身につける	
		2	いじめのない（SNSも含む）学校生活、教育	
		3	みんなで作っていく達成感のもてる活動	
		4	自他を認め合える雰囲気がある	
		5	不登校児童の対応	
	地域	6	地域と一体となった教育	
		7	地域の歴史	
		8	十日町のことを知る、親しむ	
		9	子どもたちが地域資源を知り活用できるスキルを身につけるための基礎力を身につける	
	部活動の充実	10	部活の兼部、平日に学校以外の部活も可能である	
		11	部活動の充実	
		12	選択肢を多くもった活動	
	学習	13	学力向上に伴う教育・テスト等の先生方の授業の仕方	
		14	生き続けられる力を身につける	
		15	自分を表現できる場を多くした活動	
教育環境で重視することは	学習	16	先生方の数 教科に複数いれば相談など研修も積める	
		17	テストの平均点が低い場合、他の先生による確認	
		18	教員の多様性が育つ学校	
		19	新卒教諭が「フル」学級担任にならない	
		20	学校は、挑戦して失敗していい場所、というメッセージ	
	地域	21	日常的に大人と交流ができる環境	
		22	しかる（注意）人がほしい	
		23	先生方との話し合い	
		24	地域の特産品、職業体験、歴史の授業、地域の人のお話	
	コミュニケーションの力	25	自分の居場所があると感じる学校	
		26	市立中学校は子どもの居場所のひとつである（全てではない）	
		27	コミュニケーションディスカッションやワークショップを取り入れた授業	
	部活動の充実	28	他校との交流、指導者や施設の共有	
		29	スクールバス送迎の充実	
	その他	30	中3と高1との連携（市教委と県教委の連携）	
	その他自由意見	地域	31	学校、公民館、市役所などの機能と配置を再構築する
			32	技術職の紹介、体験（農業や大工等）
			33	もっと地域とのかかわりを豊かにしたい
			34	地域社会に必要な人材像、人材集団像の例示に挑戦してみる 企業、新サービス、医療、教育、自治、行政、建設など
			35	今後地域エゴ？をどうしていくのか。全市で一校という方向性も考えては？
学校生活		36	合同運動会	
		37	大人が決めたルールから離れる時間の確保	
		38	給食の感想・意見BOX	

【4班】タイトル：やわらか楽しい学校にしたい

テーマ	グループ	内容
中学校教育で重視することは	コミュニケーション力	コミュニケーション力を鍛える
		社会適応力（コミュニケーション）
		大人数での活動
		集団生活での在り方
	学力向上	英語力の強化
		高校受験が前提となると学力向上が重要
		基礎知識（学力）生きるための知識を得る
	部活動の充実	スポーツの充実
部活動の外部委託を見据えつつ、学校での部活動も体験させたい 部活動		
生きる力	判断力、決断力を身につける	
	生きる力の醸成 稼ぐ意味を知る	
自己有用感	自己有用感の向上	
	リーダーシップ（責任感）のある人づくり	
郷土愛	強度を愛する心	
	地元で学ぶ。小・中の仕上げとして地域とかかわる活動をさせたい。	
いじめ・不登校の対応	いじめ・不登校への確実な対応	
教育環境で重視することは	教育環境	先生が楽しんでいる学校
		歩いて通える学校
		行くのが楽しい学校
		子どもが責任をあたえられる環境
		明るくのびのび過ごせる校地、校舎
		縦割り班での活動
		ありのままの自分を受けとめてもらえる場所
	地域との関わり	地域の人が学校のことを知ることができる環境（一方通行ではなく相互理解）
		学校が地域の中心的な存在である
		総合学習で体験 学校と地域の一体感 地域社会と関われること 地域の良さを知る機会（職場体験とか）
先生の充実	教科の専門の先生から学べること	
	先生の充実	
ICT	zoomなどで家庭にいても授業に参加できる環境	
その他自由意見	学校環境	学校の価値・存在意義と統合がつながりにくい
		個の時代と感じている中で人数にこだわる意味はある？
		頑張っている地域の学校は残してほしい
		個別に学ぶこと、集団で学ぶこと、両面が必要
		子どもが減っていく中で意欲的に活動できるには、どういう環境を用意したらいいのか
		少人数の中で特別な個性を育てる教育が必要なのは
		人口減少の中で特殊な取り組みがあってもいいのでは（松之山の雪里留学など）
		十日町市の子どもたちに自信がつく方向へ進めたい
	移住	居住定住者の受け入れ対策や施策
		北海道音威子府では芸術家がたくさん生まれている（全寮制学校で人気）
災害対策	災害時、帰宅ルートがいくつかある	
	大きな河川をまたがないで登校できる	

第6回 市立中学校のあり方検討委員会 意見交換 意見まとめ

テーマ	分類	No	内容	班
中学校教育で重視することは	地域との連携	1	専門の方からの出前授業（地域の方からの授業）	1
		2	郷土愛の育成	1
		3	生まれた地域の伝統文化行事を大切に教育	2
		4	地域の宝を守る（学校林等）	2
		5	地域行事の参加必須	2
		6	地域を巻き込んだ学校行事をしたい	2
		7	十日町各地域の文化の教育（国際化の一環）	2
		8	日本文化の教育（国際化の一環）	2
		9	十日町各地域の歴史教育（国際化の一環）	2
		10	（部活より）地域の行事を優先する教育	2
		11	地域住民とのふれあい（運動会、大地の芸術祭）	2
		12	地域から学ぶ（会社見学）	2
		13	保育園、小学校とも活動する機会	2
		14	地域と一体となった教育	3
		15	地域の歴史	3
		16	十日町のことを知る、親しむ	3
		17	子どもたちが地域資源を知り活用できるスキルを身につけるための基礎力を身につける	3
		18	郷土を愛する心	4
		19	地元で学ぶ。小・中の仕上げとして地域とかかわる活動をさせたい。	4
	学力の向上	20	学力の向上	1
		21	選択を持たせる。得意なものをのばす。	1
		22	学力の向上。特に英語。	1
		23	学力の向上。世界へ向けて。	1
		24	学力の向上、ヤル気。数学、英語はほぼ同じ理解者のグループ分け。	1
		25	集団（クラス）で1冊の本を読んで感想を話し合う	2
		26	論理的思考を育てる教育（それができてからでないプログラミング教育は無意味）	2
		27	学習への意欲を高める	2
		28	多様性を理解する	2
		29	中学生同士（学年を超えた）学校活動（授業とかも）	2
		30	（部活より）学習を優先する教育	2
		31	学力向上に伴う教育・テスト等の先生方の授業の仕方	3
		32	英語力の強化	4
		33	高校受験が前提となると学力向上が重要	4
		34	基礎知識（学力）生きるための知識を得る	4
	部活動の充実	35	部活動の充実（選択できる部活数）	1
		36	活発な部活動	1
		37	体力向上	1
		38	体力の向上	1
		39	部活動を積極的に推進	2
		40	熱心な部活動	2
		41	部活の兼部、平日に学校以外の部活も可能である	3
		42	部活動の充実	3
		43	選択肢を多くもった活動	3
		44	スポーツの充実	4
		45	部活動の外部委託を見据えつつ、学校での部活動も体験させたい	4
		46	部活動	4
	コミュニケーション能力の向上	47	コミュニケーション能力向上。イジメへらせる。	1
		48	社会性の育成（コミュニケーション能力の育成）	1
		49	相互理解と相乗効果をつくりだすコミュニケーションの基礎を身につける	3
		50	いじめのない（SNSも含む）学校生活、教育	3
		51	みんなで作っていき達成感のもてる活動	3
		52	自他を認め合える雰囲気がある	3
		53	不登校児童の対応	3
		54	コミュニケーション力を鍛える	4
		55	社会適応力（コミュニケーション）	4
		56	大人数での活動	4
		57	集団生活での在り方	4
	教育活動の充実 （生きる力を育む）	58	選択肢が多い	2
		59	生き続けられる力を身につける	3
		60	自分を表現できる場を多くした活動	3
		61	判断力、決断力を身につける	4
		62	生きる力の醸成	4
		63	稼ぐ意味を知る	4
		64	一人ひとりが役割を担う	2
		65	自己有用感の向上	4
		66	リーダーシップ（責任感）のある人づくり	4
	いじめ・不登校への対応	67	いじめや不登校への確実な対応	1
		68	不登校への対応。登校時間帯を他生徒の下校後にする（17時からなど）	1
		69	不登校生徒への対応	1
	小中一貫教育の推進	70	いじめ・不登校への確実な対応	4
		71	小中一貫教育を大切に推進する	2

第6回 市立中学校のあり方検討委員会 意見交換 意見まとめ

テーマ	分類	No	内容	班
教育環境で重視することは	地域との連携	1	地域との連携や協力が盛んな事	1
		2	地域から学ぶ。地元の歴史、体験談を聞く	1
		3	地域住民が先生になる	2
		4	地域住民がどのようなスキルを持っているのか見える化	2
		5	地域で活躍する方の話を聞く	2
		6	不審者扱いされない地域の人の出入りが自由な仕組み	2
		7	地域行事に参加する	2
		8	地産地消	2
		9	日常的に大人と交流ができる環境	3
		10	しかる（注意）人がほしい	3
		11	先生方との話し合い	3
		12	地域の特産品、職業体験、歴史の授業、地域の人の話	3
		13	地域の人が学校のことを知ることができる環境（一方通行ではなく相互理解）	4
		14	学校が地域の中心的存在である	4
		15	総合学習で体験	4
		16	学校と地域の一体感	4
		17	地域社会と関われること	4
		18	地域の良さを知る機会（職場体験とか）	4
	先生の充実	19	先生の充実（専門の教員から学ぶ教科）	1
		20	先生が充実している	1
		21	英語の先生やスクールカウンセラーの充実	2
		22	教員（職員）は最低5年在籍	2
		23	先生の育成と指導、子どもは先生に大きく影響	2
		24	先生方の数。教科に複数いれば相談など研修も積める。	3
		25	テストの平均点が低い場合、他の先生による確認	3
		26	教員の多様性が育つ学校	3
		27	新卒教諭が「フル」学級担任にならない	3
		28	先生が楽しんでいる学校	4
		29	教科の専門の先生から学べること	4
		30	先生の充実	4
	教育活動の充実 (居心地の良い環境づくり)	31	コミュニケーションディスカッションやワークショップを取り入れた授業	3
		32	自分の居場所があると感じる学校	3
		33	市立中学校は子どもの居場所のひとつである（全てではない）	3
		34	子供が居心地が良いと思える環境づくり	1
		35	何でも相談しやすい雰囲気づくり	2
		36	学校は、挑戦して失敗していい場所、というメッセージ	3
		37	行くのが楽しい学校	4
		38	子どもが責任をあたえられる環境	4
		39	縦割り班での活動	4
		40	ありのままの自分を受けとめてもらえる場所	4
	通学路の安全性	41	平等な時間。登下校。	1
		42	自転車通学。学校から2km以上が許可されるが、1.5kmにして欲しい。	1
		43	安全性	1
		44	生徒が30分以内、あるいは自転車で通学ができる環境	2
		45	基本は徒歩通学	2
		46	安全（スクールバス登下校の整備）	2
		47	スクールバスによる送迎が手厚い	2
		48	歩いて通える学校	4
	ICTの活用	49	ICT教育の充実	1
		50	必要に応じてオンラン公開授業→一つの中学校だけではなく十日町市内全中学校でLive	2
		51	少人数学級でも多様な意見交換ができる環境 ・ICTの活用 ・他校とのオンライン授業	2
		52	zoomなどで家庭にいても授業に参加できる環境	4
		53	タブレット、PCなどで広い社会と通信できること	4
	部活動の充実	54	部活動の指導者の専門性（充実しているかどうか）	1
		55	地域との協力	1
		56	土曜日など休日の部活時のスクールバスの充実	1
		57	部活の送迎の負担軽減	2
		58	他校との交流、指導者や施設の共有	3
		59	スクールバス送迎の充実（部活動における）	3
	学校施設の充実	60	施設が充実している。・校舎・部活	1
		61	校舎のバリアフリー	2
		62	明るくのびのび過ごせる校地、校舎	4
	その他	63	中学校に学童保育	2
		64	20人以下学級	2
		65	中3と高1との連携（市教委と県教委の連携）	3

第6回 市立中学校のあり方検討委員会 意見交換 意見まとめ

テーマ	分類	No	内容	班
その他 自由 意見	教育内容に関する事	1	クラス内での学力の差をどう指導していくか。	1
		2	特色ある学校づくり	1
		3	子供一人に合った教育が出来る学校	1
		4	身体への負担減のため。教科書の持ち帰りの選択制。	1
		5	学校毎の特色がある学校教育になる様に	2
		6	大人が決めたルールから離れる時間の確保	3
		7	個別に学ぶこと、集団で学ぶこと、両面が必要	4
		8	子どもが減っていく中で意欲的に活動するには、どういう環境を用意したらいいのか	4
		9	少人数の中で特別な個性を育てる教育が必要なのでは	4
		10	人口減少の中で特殊な取り組みがあってもいいのでは（松之山の雪里留学など）	4
		11	十日町市の子どもたちに自信がつく方向へ進めたい	4
	学校統合	12	何回も統合すると負担がある	1
		13	新しい学校も検討してほしい	1
		14	選ぶことができる中学校にしたい	1
		15	旧市町村に小・中学校があるように	2
		16	学校区がなくなると良い	2
		17	子どもたちの声を直接聞いてみたい	2
		18	学校、公民館、市役所などの機能と配置を再構築する	3
		19	今後地域エゴ?をどうしていくのか。全市で一校という方向性も考えては?	3
		20	学校の価値・存在意義と統合がつながりにくい	4
		21	頑張っている地域の学校は残してほしい	4
	地域との関わり	22	統合後の地域とのつながりは考えているか	1
		23	中学校がなくなった地域の対応（市は積極的に支援）	2
		24	学校の掃除を地域住民と行う	2
		25	技術職の紹介、体験（農業や大工等）	3
		26	もっと地域とのかかわりを豊かにしたい	3
		27	地域社会に必要な人材像、人材集団像の例示に挑戦してみる 企業、新サービス、医療、教育、自治、行政、建設など	3
		28	合同運動会	3
	学校規模	29	1学級20名（以上）の学校程度でもいいのでは	1
		30	全国の小規模校の教育が知りたい（生かしたい）	1
		31	個の時代と感じている中で人数にこだわる意味はある?	4
	先生への研修等	32	グロービスやスタディサプリで先生が教え方を学ぶ	2
		33	中学校教科担任の研修の確保 ・教育系ネットワークの整備に関連して	2
		34	教員に地域の行事に参加しろとは言わないが、せめて地域の行事を理解して欲しい	2
	施設の活用	35	学ぶ場。公民館の利用。	1
		36	「生涯学び」（大人＝地域の人も学校で学ぶ）機会、設備	2
		37	廃校校舎で課外授業	2
	小中一貫教育の推進	38	小中一貫教育を	1
		39	小中一貫が継続される様に	2
	移住の推進	40	居住定住者の受け入れ対策や施策	4
		41	北海道音威子府では芸術家がたくさん生まれている（全寮制学校で人気）	4
	災害対策	42	災害時、帰宅ルートがいくつかある	4
		43	大きな河川をまたがないで登校できる	4
	給食	44	給食の感想・意見BOX	3
	部活動	45	部活の地域移行 ・人とのかかわり ・人間形成	2